

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2024年
7月10日
第186号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会

Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957

honbu@tokyo-jichiroren.org

仲間を増やし、地域とむすぶ 各地の取り組みから

第48回足立子どもまつりに「泥だんご」で参加 (足立区職労)



足立子どもまつりは、毎年母の日に「足立子ども組織を育てる会」や「教職員組合足立支部」「新婦人の会」「土建」「足立民舞の会」「保母うたごえサークルつくしんぼ」と一緒に、“作る、遊ぶ、体を動かす”を体験できるように1975年から50年続く子どものための手作りイベントです。保育園分会は、光る泥だんご作りのコーナーを毎年担当しています。今年も卒業した保育士から若い現役保育士まで、21名がスタッフとなり、1日頑張りました。

まずは始まる前に、『泥だんご名人』と呼ばれる先輩保育士が、若い保育士にそのコツを伝授します。

子どもまつりが始まると、それぞれが分かれて様子を見たり、質問に答えたりしていきます。

ピカピカに光らせることが出来た子ども（保護者）は、とてもうれしそうに「また来年もやりたい!」と言って、真っ黒になった顔で帰っていきます。途中で壊れてしまった子は悔しがったり泣いてしまったり… 今年も2時間で110人が挑戦しました。

保育に生かせる遊びを継承しながら、各保育園の現状や困りごとなどを語り合い、保育園分会、組合活動の意義を伝えていきたいと思っています。



ヒカル泥団子



対面で今年度も開催 新人歓迎会 (世田谷区職労)



コロナ禍はオンライン・学習会形式で開催していた新入職員歓迎会。昨年度は食事なしでの対面開催とし、今年度はついにケータリングの飲食付きで実施しました。

参加は保育士、調理、栄養士の53名

53名は、くじ引きで10名前後のグループに分かれて、食事や歓談、ゲームを楽しめるようにしました。企画や準備、進行と司会は、今期新しく入ってくれた執行委員メンバーが中心に進めてくれ、都度都度会議で進行具合やケータリングの中身など相談しながら当日を迎えました。

男性保育士にエール

今年度は男性保育士の採用が複数名あり、昨今の状況から「不安」もあるのではないかと、長年保育園で働いてきた先輩男性保育士に参加してもらい、エールを送ってもらいました。前分会長の斎藤茂則さんや現役の園長・副園長が、保育の楽しさや困ったときは連絡をと自園や庁内職場の電話番号を伝えるなどして、場を和ませ、励ましてくれました。



和気あいあいの中で

会の中では、分会長から今の酷い保育環境・労働環境を変えていくために力を合わせることの大切さを訴え、先輩保育士からはピアノ演奏のプレゼント。そして毎回恒例の並び替えゲームをチーム対抗で行い、大いに盛り上がりました。

食事は、おかずは一人ひとりでしたが、サンドイッチとおにぎりは色々選べるビュッフェ形式にしてもらい、たっぷりの量と美味しさで好評でした。



つながりをつくる、拓げる

飲食を伴う企画は、本当に久しぶりでしたが、新入職員、組合員が皆で食べて飲んでおしゃべりして、一人二人でも、同期のつながりをつくってくれていたら嬉しいなと思います。とても仲よくおしゃべりしていたので研修での顔見知りかと思ったら、今日隣に座っていると笑顔で答えてくれたり、全員での集合写真もわいわいとにぎやかに撮りました。

今後は「保育を楽しもう会」へのお誘いや、若手向けで「保育の実践講座」など企画していけたらと考えています